

政権移行チームの技術的意見書におけるメキシコ市国際空港飽和问题の解決に向けた両案の主要なメリットとデメリット

案1：新空港の建設継続

<メリット>

- メキシコ市に近接する良好な立地
- （単一空港であるため）国際線の乗り継ぎを含む航空オペレーションの一大中心地（ハブ）を創出すること
- 連邦政府が既に 5,000 ヘクタールの広大な土地を所有していること
- 既に 75%の資金調達が完了しており、また、現空港と新空港の運営で受け取る収入により、残りの資金調達も可能であること
- 長期的な視点でより大きな取り扱い能力を確保できること
- 既に 31%の建設工事が終わっていること

<デメリット>

- 建設コストが多額であり、2014 年時点の 1,690 億ペソから現時点では約 3,000 億ペソ（約 1 兆 7,400 億円、1 ペソ＝約 5.8 円）まで必要な投資額が増大していること
- 湖だった不安定な土地に建設されるため、現時点では不明瞭だが、より多額のメンテナンス経費が見込まれること
- 建設工事が当初よりも少なくとも 4 年遅れており、運営開始が遅れるリスクが高いこと（それまでの間、現空港の飽和状態が続く）
- 航空安全上、現空港とサンタルシア空軍基地の運営を止める必要があること
- 空港利用料の値上がりとそれに伴う航空運賃の上昇
- 空港建設地に近いナボール・カリージョ湖を含む周辺自然環境への悪影響

案2：現空港の存続とサンタルシア空軍基地の商業利用

<メリット>

- 現空港とサンタルシア空軍基地の存続
- 運営開始までの期間の短さ（現空港飽和问题のいち早い解決）
- 新空港に比べ、地盤の問題が少ないこと
- メキシコ市への影響の少なさ（現空港が存続するため）
- 建設費用が少なくとも 700 億ペソ少なくて済み、メンテナンスコストも低いこと
- メキシコ市首都圏の航空システムを強化（2つの空港を持つことにより、自然災害時な

どのリスクが少なくなる)

<デメリット>

- 2つの空港の間の距離が近いことによる航空安全上の問題(米国の非営利団体マイターコーポレーションは両空港の商用利用は不可能と判断しており、同見解を覆すためには少なくとも5カ月の期間をかけて、1億5,000万~2億ペソかけた詳細なフィジビリティ調査が必要になる)
- 同じ都市の2つの空港で運営することによる航空会社の負担増、旅行客の利便性の低下(スムーズな乗り換えができない等)
- 既に進行中の空港建設を中止することによる経費支出(合計1,000億ペソ:600億ペソの既投資額が無駄になり、既に契約締結済みの企業に対する補償金の支払いにさらに400億ペソが必要になる)
- 債権者や受注業者との交渉が必要となり、保障金などの支払いが2019年歳出予算に相当な影響を与えること
- 新空港建設中止のニュースが金融市場に与える悪影響

(出所) AMLO氏公式ウェブサイト(2018年8月17日付プレスリリース)